



2学年 教材名：〔夜のくだもの屋〕
主題名：〔思いやりと感謝〕

少女の帰りは毎日遅かった。

大きなコンクールのために、合唱部の練習がつづいていたのである。家に帰りつく頃は、いつもまっ暗になっていた。…

団地の入り口ちかくに、小さなくだもの屋がある。ここも、このあたりの商店の例にもれず、店じまいは早かったのだが、ある日、少女がいつものようにおそい夜道をいそいでいると、その店がまだひらかれていて、あかあかと灯のともっているのが見えた。…

くだもの屋の営業時間延長は、その日かぎりのことではなかったらしい。つぎの日も、そのつぎの日も、少女は、くだもの屋のあかりに守られながら、暗い夜道を帰った。…

—おや、あんたでしたか！

いきなりそう言われて、まごついた少女は、思わず頭をさげた。

—ありがとうございました。

毎晩のあかりのお礼のつもりだったが、これでは相手に通じまい、とすぐ思い、なんとか言いなおそうと考えていると、あんがいにも、すらりと返事がかえってきた。

—いいええ、どういたしまして。

話を通じたことでびっくりして、あとのことばがつげないでいると、おばさんはつづけて、

—毎日おそくまで、ほんとうにたいへんですねえ。いえね、毎晩毎晩、いい声で歌をうたってとおんなさるでしょう。お顔もなにもしらないんだけど、でも、うちのおやじさんがね、若い娘さんがこんな暗い夜道を帰るのはさぞ心ぼそいだろう、せめてうちの店のあかりだけでもつけといてあげれば、って言いましてね。…

少女はふたたび、声もなかった。この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは、当然だったと思う。…

出典：日本文教出版
中学道徳
あすを生きる②

くだもの屋のおじさんとおばさんは、少女のために店のあかりをつけておいてくれたのですね。少女はそのことに気付かず、くだもの屋の灯りに守られながら家に帰っていたのです。

みなさんの日常のどこかにも、みなさんが気付いていない
誰かの思いやりがかくれているかもしれませんね。

2年生のみんなは、授業でどんなことを考えたのかな



- ・人に隠れて優しいことをするのもやさしさの一つだから、些細なことでも相手のために行動することが大切。
- ・思いやるときはさりげなく。
- ・見返りを求めないこと。(ダサいし、自己満足になってしまうから)
- ・本当に相手が助かることをする。
- ・よくしてもらうことが当たり前だと思わず感謝することが大事。
- ・「ありがとう」を言われたいという理由で行動するのもいいけれど、その人や皆の支えになりたいという気持ちや、役に立ちたいと思って行動することが大切だと思う。
- ・親切にしてもらったことは忘れない。
- ・してあげたことがその人の支えになるなら、自分が役に立つことができる。役に立てることに感謝したい。
- ・小さいことでも相手を思いやることで、相手も自分も良い気持ちになる。
- ・親切にしてもらうことを当たり前だと思わないこと。
- ・思いやりを感じた人は思いやりをもって行動する人になる。
- ・さりげない優しさにも感謝したい。
- ・思いやりをかけてもらったことを忘れない。
- ・してもらったこともしたことも忘れないこと。
- ・当たり前だと思っていることにも思っていないことにも、小さなことから目を向けて、その小さな思いやりに気づくこと。
- ・優しさを当たり前だと感じるのではなく、自分にとって、とても大切に嬉しいことだと認識することが大事。
- ・小さいことにもしっかり感謝して、自分もその思いやりを行動で誰かに返したい。
- ・当たり前だと思っていることにも目を向けて、それが当たり前じゃない大事なことだと気づくことが大切。
- ・その時は親切にされたことに気づかなくても、後で気づいたときには、お礼を言いたい。
- ・素直にありがとうと言うことが大事。
- ・小さなことにも感謝する気持ちをもちたい。
- ・思いやりのある行動は、相手に気づかれないからするのではなく、相手のためにさりげなくするのが大切だと思う。
- ・感謝する側は、さりげないことにも気づくことが大切だと思う。

